

AIDS UPDATE

No.62 2006.1.27

広島大学病院

エイズ医療対策室

内線5581 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

平成17年度 広大病院職員 エイズ研修会のご案内

広大病院職員エイズ研修会へは、毎年HIV/AIDS領域でご活躍の医師や研究者をお招きしています。今年度は、国立病院機構大阪医療センターの白阪琢磨先生にお越しいただき、近畿地方のHIV/AIDSをとりまく現状と課題をご講演いただくことになりました。

現在、大阪医療センターのHIV感染症患者数は、外来780名、入院患者はのべ650名を超えています(平成17年8月時点:大阪医療センターHPより)。日本でも関東の次に患者数が多い近畿地方のブロック拠点病院で、白阪先生はその中心的役割を担っておられます。大阪医療センターにおけるチーム医療(専門の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、情報担当職で構成)は、質量ともに非常に充実しており、HIV/AIDS分野においてだけでなく学ぶべき点が多いと思われる。

また今回は、白阪先生の講演前に30分間、当院における診療の実際についてお話をいただきました。演者はエイズ医療対策室の看護師河部です。当院においても、上記のようなチームによる患者支援をおこなっています。特に、患者様との関わりにおいて、看護師の担う役割は大きいと言えます。チーム医療における看護師は、患者様への直接的な支援だけでなく、患者様の身体的・心理的状況に応じてほかの医療者へつないだり、医療者間の連絡の橋渡しなども行います。いわばチーム内のコーディネーターです。ぜひ多くの医療関係者にお聞き頂きたい講演会です。

「HIV感染妊婦の早期発見と治療および 母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究」 研究成果発表会 報告

2005年9月に行われたエイズ予防財団主催の研究
成果発表会に看護部から看護師井上満美さん(4階東病
棟)、上田典子さん(手術部)が参加されました。以下、井
上さんの報告を一部ご紹介します。

(研修会報告)

4階東病棟 井上満美

今回のHIV講演会において、これから10代～成人期にあたる人の中でのHIVの感染の拡大が予想されることがわかった。ちょうどこの時期にある人は、結婚、育児などの発達課題を抱えている人であり、これから、HIVに感染している妊婦も増えていくことが予想される。HIV妊婦や産まれてくる児に対しての対策は十分検討されており、

妊娠初期のスクリーニング検査による治療

妊娠期のHIV治療薬による治療

帝王切開前の点滴によるHIV治療

選択的帝王切開

出生児へのHIV治療薬の投与

ミルク授乳(母乳の禁止)

によって、母子感染は予防できるとされている。

HIV感染予防の面からは、妊娠初期のスクリーニング



検査はとても重要な一歩であることはわかるが、この検査で偽陽性が出る方が多いことで、検査を受け偽陽性が出た妊婦さんに不必要な心配や不安を与えることになる。妊娠初期に関わる者として、このことをよく理解し、接していく必要がある。

また、妊娠初期のスクリーニング検査で初めてHIVに感染しているということがわかるケースも増えていくと思われる。産婦人科に受診し、妊娠がわかり喜びでいっぱいの際に、HIVに感染しているという事実を知る場合の精神的ショックや不安はとても大きいものであるし、家族関係に大きな影響を与えることであるので、この時に力になれるようにできたらと感じた。HIVに感染した場合の対策も大切であるが、若い世代から成人期にある人がHIVに感染しないように、HIV感染予防教育に対しても働きかけていく必要がある。

[添付資料]平成17年度厚労省エイズ対策研究事業「HIV感染妊婦の早期診断と治療および母子感染予防に関する臨床的・疫学的研究班作成『女性のためのQ&A - あなたと赤ちゃんのためにできること - 』

冊子追加配布のご希望があれば、エイズ医療対策室(内5581 / 5351)までお知らせください。

第1回看護師のためのエイズ診療従事者研修 アドバンスト・コース

これまで、広島大学病院は『看護師のためのエイズ診療従事者研修』に、計83名の看護師を受け入れてきました。この研修は、平成10年に「看護者のためのエイズ実地見学(初期課程)」としてスタートし、これまで年度内2回のペースで通算10回行われてきました。数年前からは、ブロック拠点病院である県立広島病院や広島市立広島市民病院からも看護師がスタッフとして参加して下さるようになり、アンケートをもとにしたプログラム内容の検討や講師の充実など、改良を重ねてきました。

そして今年度、これまで研修に参加したことのある看

護師を対象に、経験者・上級者向け研修としてアドバンスト・コースを企画しました。

開催は、2006年2月23日(木)・24日(金)。2日間の研修で、内容は医師による講義「HIVの現状」・「入院治療が必要なエイズ指標疾患の診断と治療」のほか、病棟看護師から「病棟における看護師の役割(4階東病棟 / 9階西病棟 / 手術室)」などお話を伺います。また他施設からも講師をお招きし、「セクシャリティ」、「予防行動・セーフターセックス」など、HIV感染者の理解と支援に重要な意味をもつ性に関する講義も予定しています。このほか、参加者に報告してもらった事例をグループで検討するプログラムや、看護の現場における援助技術の習得(ロールプレイ)をもちこんだ内容になっています。

広島病院は、院内の医療者教育のみならず、中国四国地方におけるエイズ拠点病院に勤務する医療従事者のための教育・研修という重要な役割を担っています。HIV/AIDS患者さんの増加により、今後よりいっそうHIV/AIDSに携わる医療者の育成が望まれています。病院全体としてこの役割を認識し、取り組んでいく必要があります。



< ご意見募集 >

ご意見やご希望がありましたらエイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せ下さい。

[TAKATA, OE]

nobotaka@hiroshima-u.ac.jp